

「八代らしさ」を街に、文化に。

第二回県民文化祭 「八代市」

「文化の街づくり」

人口10万9千人。県内最大の河川球磨川の下流に位置する八代市は、歴史と伝統と民話に育まれた街。八代城、松浜軒、彦一、ガラッパ……。そして今、物質や経済面だけでなく、自然や精神面の向上を重視した新たな街づくりの運動が活発になってきた。その第一弾として、今秋、『第一回県民文化祭』を開催。八代らしさを十分に活用した祭典にしようと、さまざまな企画が用意されている。

「街中に響くハーモニー」

「できるだけ多くの人に聴きに来て欲しいです。」昨年の国民文化祭で好評だったミュージカル『彦一どんを知っているかい』を演じた八代少年少女合唱団は、総勢90名。今回も、昨年引き続き同ミュージカルを演じる。結



成15年、各演奏会を通じてのその評価は高い。

ピアノの音が流れはじめると、子供たちの顔がほころぶ。歌っている時はずっと楽しそうだ。「みんなでいっしょに歌うのが嬉しい。」中には、「先生の目が光っている練習中よりも本番の方が気がラク」なんていう現代っ子らしい面もチラホラ。なによりも、全員で参加の喜びを分かち合うことを大切にしたいという。全員で出演することが、



「伝統を守り育てる名シテ」

同じ頃、本町のビルの三階にある能の練習場では、謡に合わせて小さな子供たちが汗を流していた。「これは鞍馬の奥僧止が谷に住居する客僧にて候……。」金春流新能「鞍馬天狗」の冒頭である。義経と鞍馬山の天狗が登場するこの物語は、花見の場面から始まる。子方は3才から7才までの5人。夏休みを利用しての練習に、子供たちも真剣そのもの。金春流は最も古い能の流派のひとつ。八代城主松井家を中心に、今日まで伝えられてきた。出水神社をはじめ年数回の奉納をコンスタントに行う。



「同じ水準の者が20人はいないとできません。それがいないから、今では能をやるのも難しいんですよ。」

金春松融会の栗田亮蔵さんは、温厚な笑顔を浮かべてそう言う。県民文化祭では、狂言「彦市ばなし」（◎人間国宝 茂山千五郎）と共に大きな柱として期待される。「わざわざ人を集めて八代でさせて頂くんですからね。頑張らんといかんですな。」やわらかい口調の中に静かな決意が見え隠れする。少ない後継者の問題もそろそろ気にかかる。栗田さんは、優しいまなざしで幼い愛弟子たちを見つめた。



八代少年少女合唱団らしきなのかもしれない。「とにかく、子供たち自身が音楽にやりがいとか楽しさを持つてくれたらいいと思っています。勉強だけじゃなくて、もっと文化的な活動にも目を向けてもらえると嬉しいです。」タクトを振る先生たちの指導にも熱が入る。週一回の練習が、二回、三回と増えていく。八代少年少女合唱団は、県民文化祭の最終日に出演する。



「陽気なアーティストたち」

「八代には美術館がない。じゃあ、思いついて美術館を街の中にもってこよう。街全体をギャラリーにしてしまおう。それが、八代らしいやり方だと思っただけです。」タウンギャラリーの企画者のひとり山下益雄さんは、熱い口調でそう語った。一時は中断してしまっただけでもあり、紆余曲折を経てようやく開催までこぎつけた。

「最初から苦労の連続です。今は街全体に浸透させている段階。お店に飾ろうとした時、知らないなんて言われるとたいへんですからね。アドバイスにも行きますし、なかなかたいへんですよ。」自分たちで発想して、独創的なやり方でやる。それが、八代らしさだ。——強い信念のもとに山下さんの夢は広がっていく。

● その他
オープニングパレード、オープニングフェスティバル、やつしる映画祭、クラブフェスティバル、文化シンポジウムなど
● 多くのイベントが開催されます。

- タウンギャラリー
■ 本町アーケード街 ■ 10月23日(日)～10月30日(日)
- 八代薪能
■ 松井神社 ■ 10月24日(月) 18:00～21:00
- グランドフィナーレ八代讃歌 彦一物語
■ 八代市厚生会館 ■ 10月30日(日) 17:00～20:00

第1回
県民文化祭・八代
10月23日(日)～30日(日)
● 会場
八代厚生会館
八代市総合体育館ほか

「絵なんていうものは、キチンとした美術館ですまして見なければいけない」というものではないと思うんです。街の中でも十分生きるんですよ。タウンギャラリーを通して、一般の方々が美術作品に親しむを感じてくれればいいし、商店街の方々も自分の店の見直しをして頂ければいい。それで八代が、いつも絵のある街になればとても素晴らしいことですよ。」

忙しくて、なかなか自分の作品を描けないでいる。「とにかく時間を見つけて描かんといかんと思っています」山下さんの努力も、もうひと息である。県民文化祭は10月23日からスタート。自らの「八代」を発見しようと頑張る人々の熱い思いが溢れ出してくる。秋風が冷んやりとする中、八代はホットな10月を迎える。

